

### 3. 2017 年度活動概要

EAP 研究会は、JACET EAP 調査研究特別委員会として、英検委託研究事業の最終年度として総括を行う活動に取り組んだ。本研究では、日本の大学で実施されている EAP カリキュラムの現状と課題を把握するために、全国的な実態調査と海外での調査を行ってきた。本調査研究の最終年度である 2017 年度は、2016 年度までに収集したデータ（国内 7 大学、台湾 5 大学、香港 2 大学の EAP 教育実態）のさらなる分析と研究の総括を行った。英国 EAP 教員の学会（British Association of Lecturers in English for Academic Purposes: BALEAP）が発行する EAP 教育の認定基準を参照して調査結果を考察することで、日本の大学における EAP 教育の現状を把握することができた。分析結果から、様々な専攻分野に共通する一般学術目的の英語（English for General Academic Purposes: EGAP）スキルの教育、学習目標の明示、外部試験の活用、質保証を目指した取り組み、そして授業外学習支援などが、日本の大学における EAP カリキュラム設計と運営の主要点として挙げられた。一方、英語教育と専門分野教育との連携は、カリキュラム内容と組織的な運営の点でまだ発展途上にあることが確認された。

本研究の成果は、CAES International Conference (香港大学 Centre for Applied English Studies) や Thailand TESOL International Conference など、海外を含む複数の学会で公開した。JACET 第 56 回（2017 年度）国際大会では「大学英語教育の質保証に向けた EAP カリキュラム運営」と題した JACET EAP 調査研究特別委員会シンポジウムを行った。本研究結果から示唆された EAP カリキュラム運営の課題点を中心に、調査にも参加した 3 大学のカリキュラム運営担当者がそれぞれの優れた取り組みを紹介しながら、今後の EAP 教育の基準構築に向けた議論を行うことができた。また、雑誌『英語教育』では、日本の大学における EAP 教育の現状を広く周知した。本研究結果の最終発表として、最終報告書の執筆を進めている。また、JACET 第 57 回国際大会（仙台、2018）においてポスター発表を行う予定である。